誤嚥（ごえん）性窒息死のない世の中へ！命の危険が潜む夜間労働者（個人・団体）に愛と光を!!

連載114 在宅医療奮闘記

平成7年より在宅を開始した私の思い出

（医）東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義（67歳・内科）

進行性肝がん（肺転移）の患者さんも“自宅緩和ケア”の時代に大いに満足!!

訪問診療初日のことです。まるで、命からがら戦地から生還した軍人さんのように、T.Tさん（85歳、男性）が、「先生、お世話になります。やっと帰れました」と、うれしそうに言葉を発しました。高度機能病院の抗がん剤治療は、その副作用でそうとう苦しかったのだそうです。

T.Tさんは独居ですが、近くに娘さんが住んでいて、毎日一回は顔を出して安否確認ができるということで、病院の主治医から当院に在宅医療の依頼があったのです。

今後は、病院の主治医と当院のかかりつけ医（24時間365日体制で訪問診療、往診を行う医療機関）とで、医療・介護連携をして、患者さん中心の生活療養支援（クオリティ・オブ・ライフを尊重するサービス）をすることとなりました。このような連携は、地域包括ケアシステム、さらには地域創生には欠かせません。

現在、「体のやり場がない」と、夜間往診依頼があります。T.Tさんは、不安神経症状（がんノイローゼ）が強く、薬剤投与や精神ケアを行っています。また、背部痛、腰痛、腹痛などがあり、高度機能病院の主治医に御高診精査をお願いしたりを繰り返しています。介護保険上、要介護②認定患者であるT.Tさんは、廃用症状がみられるようになりました。そして、いずれは自宅での看取りを希望しているのです。

日々のT.Tさんは、「住めば都」の言葉がぴったりの満足顔で過ごしています。患者さんとかかりつけ医の立場をしっかりとわきまえた上ではありますが、「人の命の崇高さ」にお互いが浸り、広義上の“絆”が生まれたように感じます。

今日も、傾眠傾向で食事が取れず寝たきり状態となったため、往診し点滴静注をした後、高度機能病院へ救急搬送し、精査をお願いしました。脳出血などではなく、自然の症状であるとの診断で、在宅医療の継続となりました。しかし、今の状態は、終末医療レベルであると認識せざるをえませんでした。

人の命は「寄せては返す波のように」少しずつある所へ歩んで行くものだと、いつもながらですが改めて体感したのです。

> 現在、特にがん緩和ケアと認知症対応能力の向上が、かかりつけ医に求められています。そして時々、研修会が開催されてきました。
>
> どんな病名の患者さんも、症状が安定し、自宅での生活が可能であるようにするためには、介護・医療サービスの提供や地域のボランティアそして行政のバックアップが欠かせません。
>
> 真のノーマライゼーション構築には、“質”を担保とすべきです。それには、医療・福祉環境の研究と行動が必須であり、矜持（きょうじ）とするべきでしょう。

～安全・安心・健康塾～
〈ボランティア活動〉
人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。（5分間ルール）
現場の人達を救命救急士として教育する
「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まる。

外来診療（かかりつけ医） 要予約
総合内科・漢方診療科
お医者さんが来てくれる
24時間・365日体制で対応（松山市全域）

私たちは、質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。

医師数 22名
（常勤8名、非常勤14名）
内科・外科専門医 18名
（国立がんセンター勤務歴有3名）
精神科専門医 2名
麻酔科専門医 2名
（ペインクリニック科）
末期がん治療（緩和ケア）相談室開設！

（医）東西会イメージキャラクター
「イチゴ・ツル・カメ」
三世代の「絆」を表すキャラクターです。
イチゴはこどもたち、
ツルはお父さん・お母さん、
カメはおじいちゃん・おばあちゃんを
表しています。

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
（医）東西会 千舟町クリニック
松山市千舟町6-4-9 ☎089-933-3788 http://www.touzaikai.jp/